

ラックスマン製真空管ハーモナイザー・キット 「LXV-OT6 mkII」を組み立てる

お送りしております商品には、上の写真の部品が入っています。組み立ての前に、すべての部品が揃っているか必ずご確認ください。
※ネジ類など小さな部品も多数ございますので、取り出しの際に紛失しないようご注意ください。

- ① シャーシ（底板）
- ② シャーシ（天板）
- ③ シャーシ（フロントパネル）
- ④ シャーシ（リアパネル）

- ⑮ 電源コード（1本）
- ⑯ 完成基板（1枚）

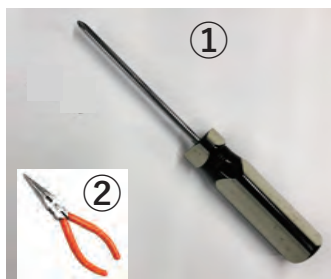
小分け袋内

- ⑤ 基板-シャーシ固定用リベット（3個）
- ⑥ アース用ネジ（基板用1個）
- ⑦ アース用ワッシャー（基板用1個）
- ⑧ ネジ（14個）（シャーシ用12個+端子用1個+予備用1個）
- ⑨ 電源インレット固定用ネジ（大2個）
- ⑩ ハーモナイズ コントロールボリュームつまみ（1個）
- ⑪ ボリューム軸とシャーシを固定するワッシャー（2個）
- ⑫ ボリューム軸とシャーシを固定するナット（1個）
- ⑬ ゴム脚（ゴムスペーサー）（4個セット）

専用箱

- ⑭ 真空管
※高信頼管 JJ ECC802S（スロバキア製）
（1本）

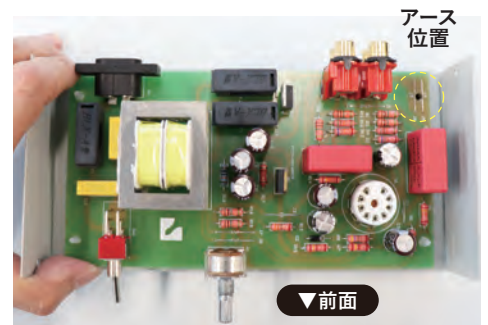
お客様ご自身でご用意いただくもの



- ① プラスドライバー
100円ショップなどで販売しているドライバーでは、刃先が潰れる可能性があります。ホームセンターなどで販売されている、刃先がしっかりした力の入れやすいドライバーをご用意ください。なお、本キットは、ネジでシャーシに溝を切っていくタッピングネジを採用しています。最初はネジの進行方向に体重をかけて力を加えながらじっくりと回して締めてください。右に回して締め、堅くなった後少し左に回して緩めてから、再度右に回して締め込む動作を繰り返すとうまく締めることができます。（右図参照）
- ② ラジオペンチ または レンチ

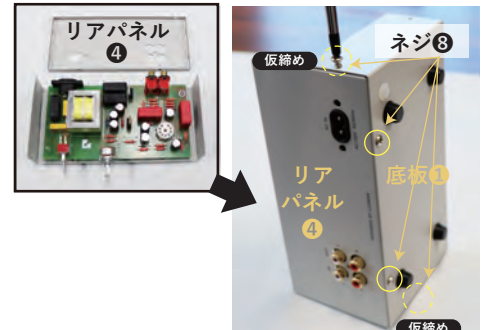
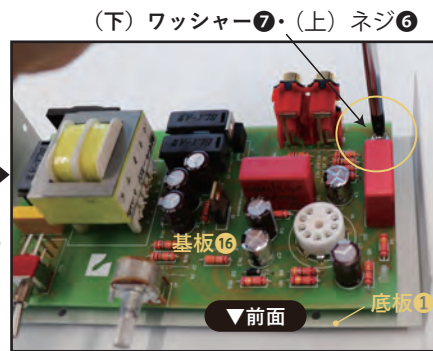
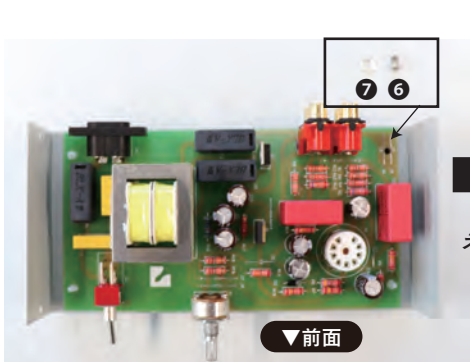


タッピングネジの締め方



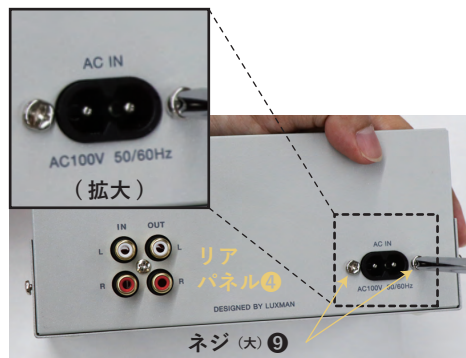
1 シャーシ底板①の下から、固定用リベット⑤を3ヶ所、カチッと音がするまで奥に差し込む

2 完成基板⑬をリベット⑤に差し込んで固定する。前面から見て右奥はアースとなるので、向きに注意



3 シャーシ底板①と完成基板⑬とをアース用ワッシャー⑦とアース用ネジ⑥で締める

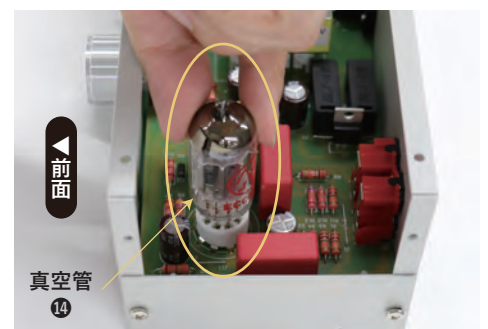
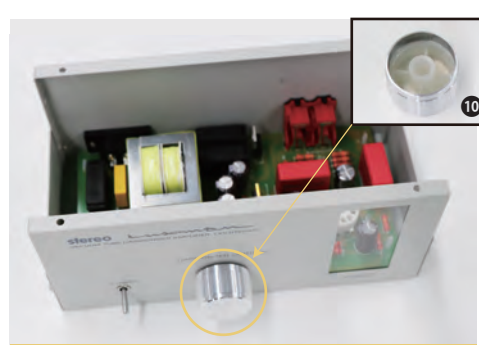
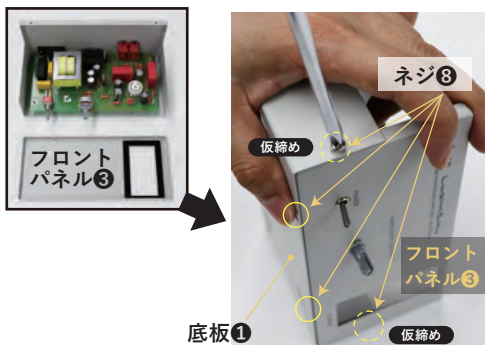
4 シャーシ (リアパネル④)と底板①とを RCA 端子・電源の位置を合わせながらネジ⑧で4ヶ所 (側面2点と底面2点) 固定する (側面2点のネジは仮締めしておく)



5 RCA 端子とリアシャーシをネジ⑧で固定する

6 電源コードのインレットをシャーシの内側から押さえながらネジ(大)⑨で固定する

7 ワッシャー⑪ (2枚ありますが、そのうち1枚をボリューム軸に通し、その上からシャーシ (フロントパネル③)をかぶせ、フロントパネルから出たボリューム軸に残り1枚を通し、ナット⑫で固定する (ナットはラジオペンチやレンチで締める)



8 シャーシ (フロントパネル③)と底板①とをボリューム・スイッチの位置を合わせながらネジ⑧で4ヶ所 (側面2点と底面2点) 固定する (側面2点のネジは仮締めしておく)

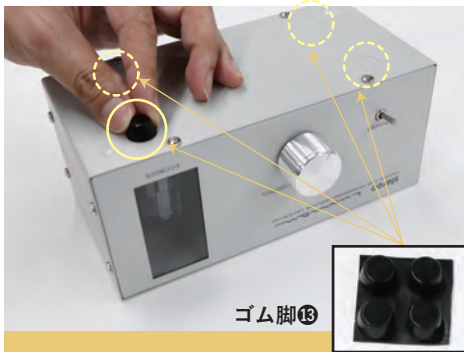
9 ボリュームつまみ⑩を角度を見ながらちょうどいい位置で押し込む

10 真空管⑭をソケットにピン位置を合わせて左右に少しずつ振りながら慎重に奥まで差し込む



11

シャーシ天板②を4ヶ所ネジ⑧で仮締めする



ゴム脚⑬

12

シャーシ底板①の窪みに合わせて、ゴム脚⑬を4ヶ所貼り付ける



13

シャーシ固定ネジをすべて本締めし、電源コード⑮をつないだら完成

ハーモナイズ コントロール (HARMONIZED CONTROL) の使いかた

- ・ボリューム位置によって真空管の偶数次高調波（倍音）の出方が変化し、再生音も変化します。（ボリューム最小を標準的な状態として、右に回すと入力レベルに対する高調波の分布と量が変化します。）
- ・ソースのジャンルや再生音量により、お好みの位置に調節して使用してください。



真空管ハーモナイザー（LXV-OT6 mkII）使用例

真空管ハーモナイザーの増幅率は1対1なので、RCA ケーブル間の図のような位置で使用できます



※許容入力 は 3V まで。3V 以上を入力すると歪むことがあります。プレーヤー、真空管ハーモナイザー、アンプというように上流から電源を入れてください。

※電源を切る場合は必ずアンプから切ってください。アンプの電源が入ったまま真空管ハーモナイザーを切った場合、スピーカーを破損させる恐れがあります。



接続例

ハイブリッドプリメインアンプ LXV-OT7 mkII（上段）、グラフィックイコライザー LXV-OT9（中段）、ハーモナイザー LXV-OT6 mkII（下段）。接続は LXV-OT6 mkII の出力から LXV-OT9 の入力へ、さらに LXV-OT9 の出力からアンプ LXV-OT7 mkII の入力に接続。